

## 伊吹山の山岳信仰

# 伊吹山と山麓の石造物

伊吹山修験の修行の道・禪定道の最終目的地である弥勒堂のようすが、江戸時代の地誌『近江輿地志略』に記されています。「漸く此嶮難を上れば絶頂弥勒の広野に至る。方四町一面畠を敷くが如し、樹あり常に疾風に吹きさらされ刈籠め植樹の如し、中央に石壇ありて石堂の中に石像の弥勒宛然たり、階前に石の宝塔あり向に經塚あり、宵より麓を出て曉此処に至る。朝日の出づるを待ちて三尊の弥陀を拝すともいう。」また、郷土史家中川泉三は「其の附近累々たる古塔乱堆す。堆土と石塔、且つ石仏あり、或は古墳にあらざるか」と述べており、実際、弥勒堂は奈良時代に伊吹山寺を開山した三修上人が亡くなつて昇天した聖地といわれています。戦前の絵葉書にも、多くの石塔類が林立しています(下の写真)。

もともと弥勒堂に祀られていたという弥勒石仏が、山麓の伊夫岐神社(伊吹)対岸の秋葉さんに移されています。鎌倉時代にさかのぼると思われる古仏で、山頂弥勒堂が鎌倉時代には存在したことを物語ります。

伊吹の神を祀る山麓の伊夫岐神社境内には、不揃いながら石造宝塔が1基あります。宝塔は「法華經」を賛嘆する天台宗の教義から建てられるもので、天台寺院との関わりが想定されます。また、参道には地輪が伸びた長足五輪塔が1基あり、ここから始まる伊吹禪定道の丁石かもしれません。



## 伊吹山寺の石造物

山腹の太平寺跡から移された大平觀音堂境内の石仏・石塔群の中には、三重の層塔があり貴重な石造物です。旧太平寺の円蔵坊跡にも石仏や石塔が集められています。

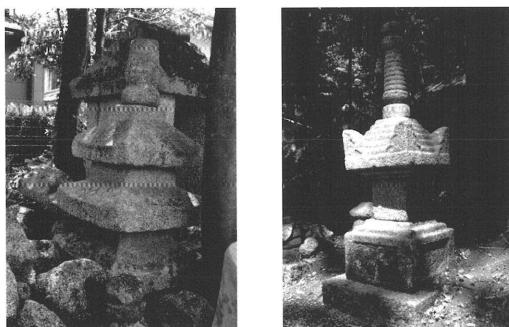
平野神社(弥高)の石造宝篋印塔(市指定文化財)は高さ約170cmの花崗岩製で、すらりとのびる完形の優品です。型式から鎌倉時代末期の作と推定されます。背後の山林中には、円如坊の五輪塔とよばれる完形品も残されています。これらは、弥高寺の登り口に位置することから、その関連がうかがえます。山腹の弥高寺跡にも巨大な宝篋印塔があります。現在は、坊跡群の東端にありますが、戦時に近江高天原説の影響で行者の森から現在地に移されました。やや寸詰りで一部を欠きますが、総高約180cm、笠部幅約80cmを測る北近江最大級のものです。長尾寺跡の南墓地には天文7年(1538)銘の完形の五輪塔があります。



もと山頂にあったという弥勒石仏(伊吹)

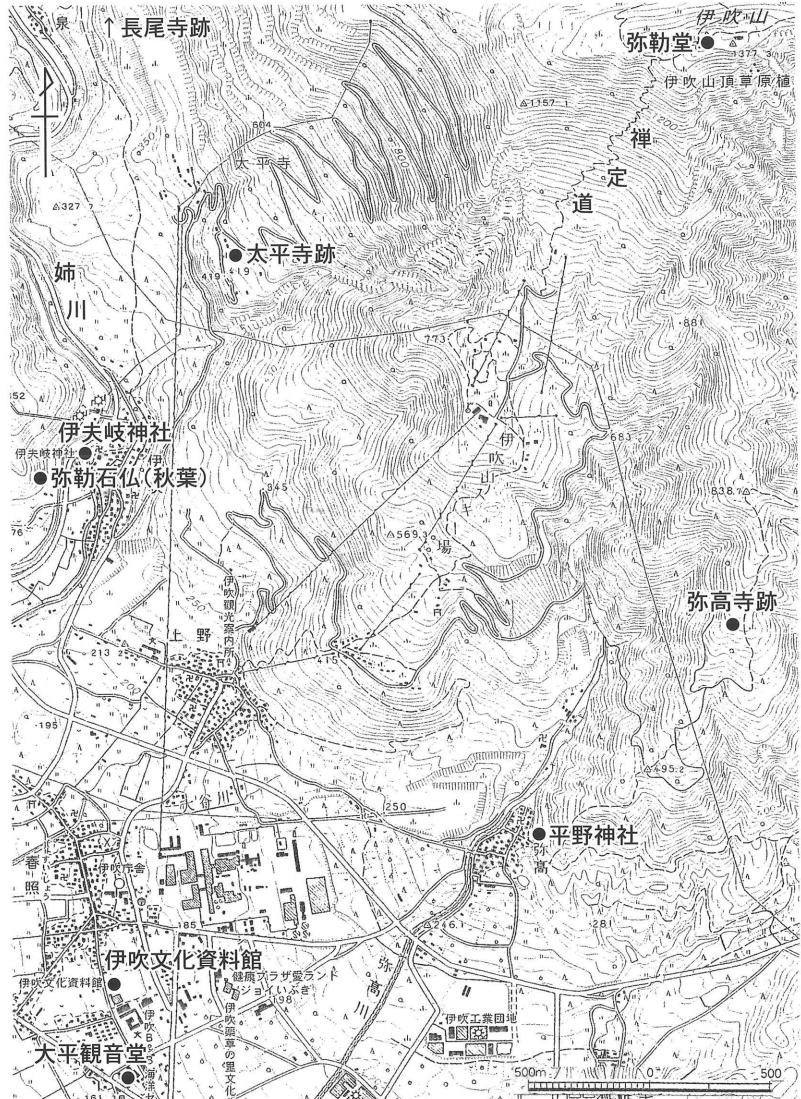


石造宝塔・長足五輪塔(伊夫岐神社)



層塔(大平觀音堂)

宝篋印塔(平野神社)



石造物位置図



宝篋印塔(弥高寺跡)

## 伊吹山と山麓の石造物

■ 所在地 滋賀県米原市伊吹、弥高、伊吹山

■ アクセス JR東海道本線近江長岡駅下車。バス利用。

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1050-1 TEL.0749-55-4552

平成25年度 埋蔵文化財活用事業